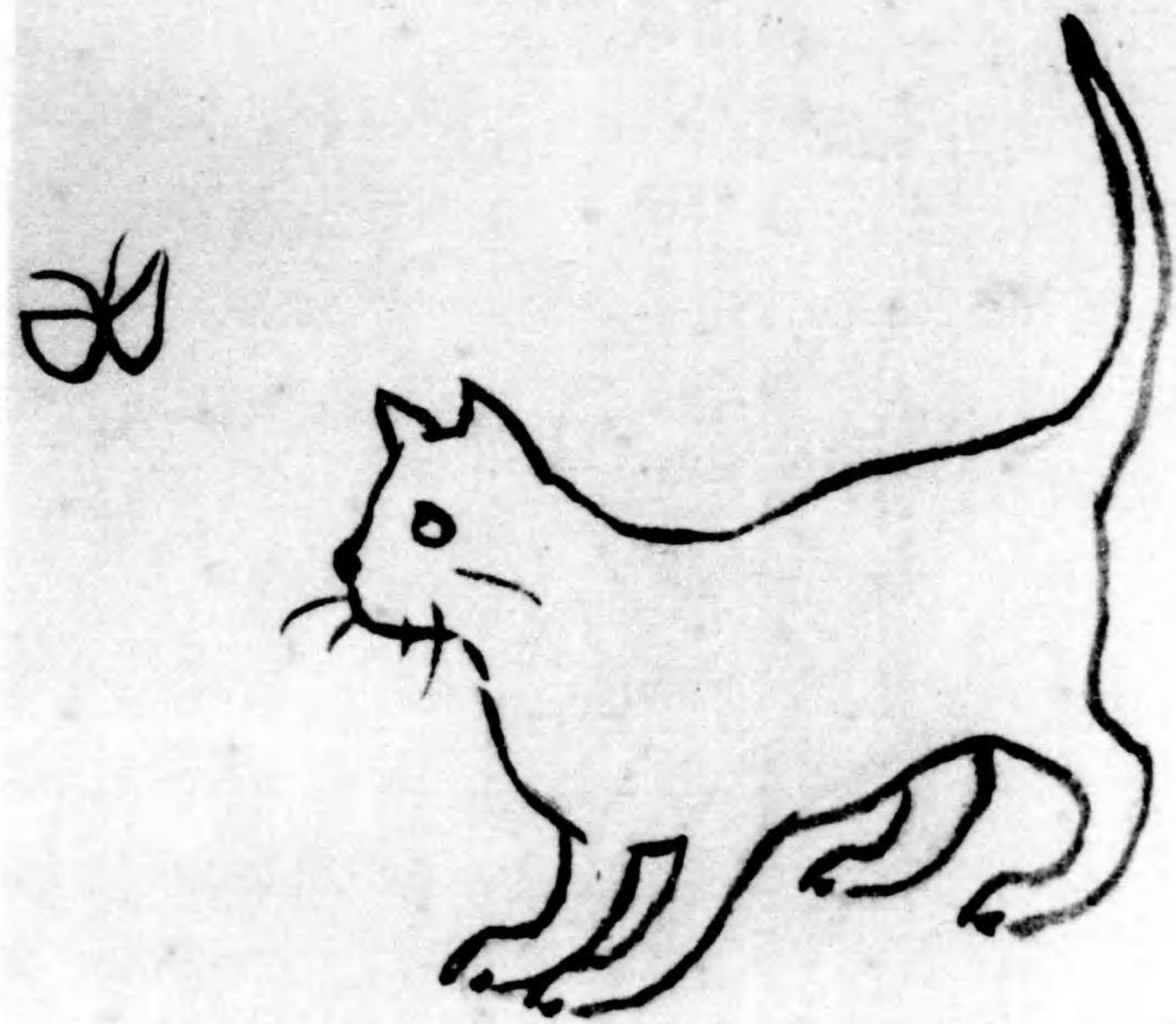


小 猫

首くびにリンリン小鈴こねいをつけて  
小猫こねこおたまは可愛かあいいけれど

朝あさから晩ばんまでいたづらばかり  
わたしはほんとにほんとに困こまる

私わたしが鞆たもとをポンポンつく  
お手てを出だしてひつかき廻まわる



小猫

私の人形が寝んねをすれば、  
お衣を噛んだり顔抓つたり

たまやお前が意地悪すると  
わたしはベスに告つてやる

郵便屋さん

肩に大きな革靴をさげて  
わき目もふらずてくてくと  
あちらこちらに手紙をくばる  
郵便屋さんはせはしいね。

雨もいとほす風にも怖ぢす  
暑い寒いを口にも出さす  
時間をいつも違へず廻る  
郵便屋さんは可愛いね。



かくれんぼ

一

もういいか？  
行つてもよくつて？  
もういいか？

二

まだだよー！  
お目をつぶつて  
向むきよ！

三

此所にしましよか  
彼處にしましよか

早くさ早く  
よう美(み)い(ち)やん!

四

あなたはあすこ

あたしはこゝよ

えゝえゝさうよ

それがいゝ!

五

いつしよにいひましよ

お聲(こゑ)をそろへ

「もういゝよ!!」



かくれんぼ

梅

咲さけよ開ひらけよ庭にほの梅うめ

今こと年の花はなのさきがけぞ

咲さいて宿やどかせうぐひすに

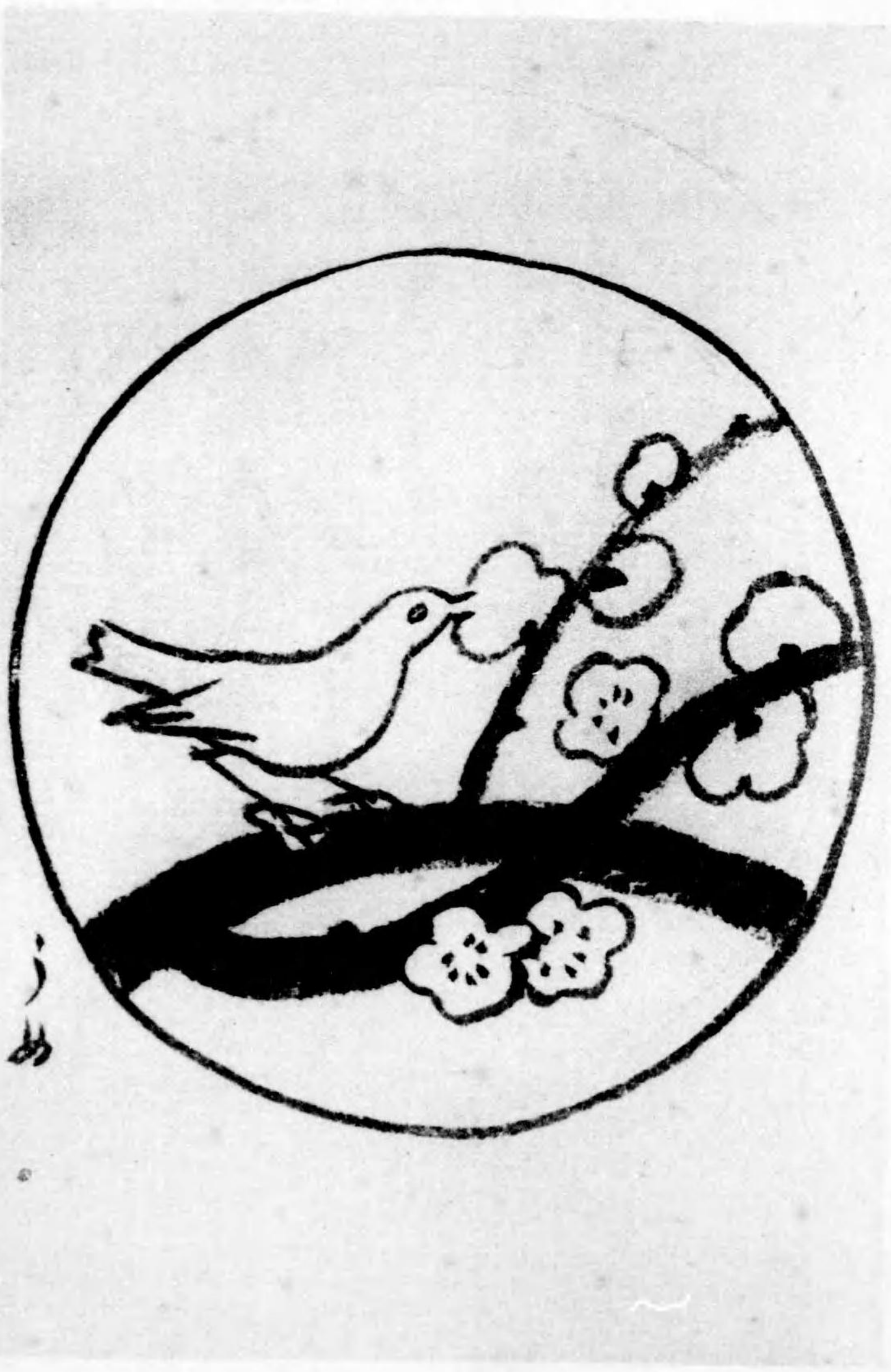
ケキヨ ケキヨ ケツキヨ

ホーホケキヨ

わたしの好すきな梅うめの宿やど

散ちるな落おちるな梅うめの花はな。





小犬

一 長いおべろをべろく出して

おまへはいつも楽しくあそぶ

ボチはよい犬可愛い小犬。

二

お前は小さな尻尾をふつて

あちらこちらとあんよをするが

つまづくまいぞ大きな石に。

三



小犬

お前の兄さん角力が好きで  
いつもお前と角力をとるが  
怪我をすまいぞそのあしもとで。



海國男兒

海男兒

一 大波小波真面にうけて  
散らす手先の波の花

二 千里の波も千尋の底も  
なに恐るべきこの腕つぶし

三 泳げ日頃の手練を見せて  
これぞ日本の海男兒

誕生たんじつ日に  
 しやんとして歩あゆみゆけかしおゝ吾われよ  
 いとほしき吾われよしやんとせよかし

ハトボツボ終

大正三年四月一日印刷  
 大正三年四月五日發行  
 定價三十五錢

ハ一 著作者 大手八郎  
 東京市淺草區下平右衛門町九番地

ボ一 發行者 岡村庄兵衛  
 東京市小石川區久堅町一〇八番地

ボ二 印刷者 山本定輔

發行所 岡村書店  
 東京市淺草區下平右衛門町九番地  
 電話下谷四二〇四番  
 振替東京一九〇六五番

行印所副印館文博

竹久夢二先生畫

# 夢二 繪手本

東京朝日新聞評  
草木禽獸蟲魚器具人物凡そ  
有らゆるものを取りて自在  
に之を描出し落筆は簡なれ  
ども其の趣は真に掬すべし  
少年少女の繪手本として好  
箇のものなるのみならず誰  
人が開いても作者に同感す  
るの情禁する能はざるもの  
あらん

菊判形美製本  
極彩色繪挿入  
皆さんさ永くの間お馴染であつ  
た夢二先生は此度洋行をな  
さるについて紀念として畫  
かれたのでありますから是非皆  
さん方もお求めを願ひます

定價金七拾錢  
郵税金八錢

故渡邊與平先生畫

## 子供畫噺



定價金四拾五錢  
郵税金八錢

これは與平先生が「兄弟」「姉妹」にか  
いた畫を集めたのです、それで  
「繪伽」が一題づゝ掲げてあります  
から太郎君も次郎君もお花さん  
お梅さん誰が讀んでもたゞ見る  
ばかりでもオモシロイ、畫噺  
故ミナサンに御進め致します。

274
940



終

